

観光地と洋式ホテル

特236

225



鐵道省

始



○山王ホテル

所在地 東京市豊町区水田町二ノ七三
電話 銀座(五七)五七〇一―五七〇七
代表者 支配人 小山九右衛門
室数 八四
料 金(歐式)

一人室浴室付 三、五〇―六、〇〇
浴 無 三、〇〇―三、五〇
二人室浴室付 一、二〇〇
食料 朝 一品料理 晝 一、〇〇 晩 一、五〇
和食もあり。茶 葉 三十銭

○大森ホテル

所在地 東京市大森區新井宿二ノ一五―一五
大森驛より徒歩五分
電話 大森一〇三六
代表者 猪原護夫
室数 三五
料 金(歐式)

一人室浴室付 五、七〇―六、五〇
二人室 八、二五―一〇、〇〇
一人室浴室無 二、五〇―五、五〇
二人室 四、五〇―七、五〇



大森ホテル

(米式)

一人室浴室付 九、二〇―一〇、〇〇
二人室 一五、二五―一七、〇〇
一人室浴室無 六、〇〇―九、〇〇
二人室 一、一五〇―一四、五〇
朝 八、〇〇 晝 一、二〇 晩 一、五〇
一、〇〇 一、五〇 二、〇〇
茶 葉 三十銭

アメリカの流るホテルでの時は、壁下のポストに手紙を入れようと思つて、一寸そこまでだといふので郵便物のまゝ、壁下に入影のないを見すまし部屋を出て大急ぎで投函して引くと、部屋のドアにはあやんと鍵がかつてゐる。はつと思つたが實はドアが開けると自動的にロック(錠)されることを忘れてゐたのである。

時刻が移ると何時人が出て来るか分らない、俄に郵便物を局人にでも見られようものならと思ふと気が荒でなく、進退窮まつたところだと思つたのが下の階にある友人の部屋である。脱兎の勢で階段を飛び下りてそこに突進した、幸いそこにその友人がゐて呉れたので辛うじて避難することが出来たといふ。

日本でも既に自動的にロックされるドアが段々と出現しつつある。従つて右の挿話に似た事態が何時発生しないとも限らない。

横 濱

横濱市は東京市の門戸をなし、神戸と共に二大貿易港として内外巨船の來往繁く、岩壁に並ぶ汽船や、附近の純洋式の遊園地、そこを逍遙する外國人、更に又外人居留地街等に異國情緒が濃に漂つてゐる。

横濱市の目貫の場所は伊勢佐木町通で、東京の銀座に匹敵してゐるが、映画館などもここに集まり、電車自動車を通さないのが銀座とは又違つた趣のある街である。横濱市の全景を見るには震災記念館か、伊勢山大神宮のある野毛山か、井伊直弼の銅像のある榑部山かに登るとよい。

三溪園は市内電車本牧停留場から約半軒、市内第一の遊覽地で、山水の配置もよく、櫻、藤等の花に富み又海の眺めもよい。

交通 東海道線の列車、電車及び京濱電車で東京との交通は至便であり、省模電車は市の中央で港に近い櫻木町迄入つてゐる。東京横濱間約三十分。京濱電車は湘南電車に連り市内を縦貫して湘南地方に通じてゐる。市内には市内電車が發達した十銭均一の乗合自動車も便利

稻臣太等編輯
鐵道院各驛長贊助

帝國旅館全集

交通社出版部發行

大正
2. 12. 9
內交

横網	一ノ一五	清水屋	四谷區	六二	藤川館
一ノ一七	清水屋	豐國館	一五六	大寶館	大寶館
一ノ一九	豐武館	鹽町	三二	雲井館	雲井館
小泉町	三ノ三〇	東洋館	泉館	平山タツ	平山タツ
三五	三ノ二三	東信濃町	柴崎屋	四六	松永館
一六	一六	信濃館	五三	五八	千代館
旭館	一六	信濃館	五八	五五	増田館
元町	八	中村屋	六〇	六〇	不二館
一一	一一	中村屋	六〇	六〇	名溪館
二五	二五	秩父屋	六〇二	六〇二	榮進館
緑町	二五	中村屋	五九七	六〇一	明治館
五ノ三〇	五ノ三〇	神林イチ	六〇一	六〇一	能生館
一ノ六	一ノ六	武田規夫	六〇五	六〇五	天城館
永倉町	永倉町	改正館	五〇四	五〇四	武田館
入江町	入江町	大正館	五〇七	五〇七	改正館
二七	二七	玉林館	六二	六二	大正館
菊川町	菊川町	日吉館	五〇九	五〇九	玉林館
一ノ一四	一ノ一四	山盛館	六〇五	六〇五	日吉館
		綿喜館	四二	四二	山盛館
			六〇二	六〇二	綿喜館

荏原郡

[illegible]